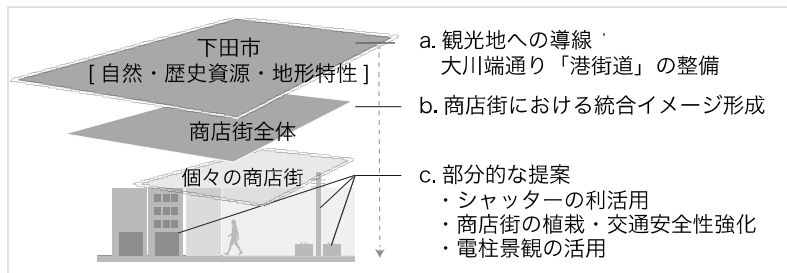
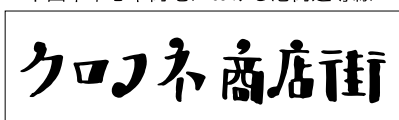


②下田市中心市街地に対する基本構想案の作成

提案では下田全体の俯瞰的視点から、商店街を散策する人間的視点へ徐々にスケールダウンする層(レイヤー)を意識した構成にまとめた。



▲下田市中心市街地における港街道導線



▲下田市商店街のロゴタイプの検討案

a. 大川端通りの「港街道」の整備

現在、伊豆急下田駅から主な観光目的地であるペリーロードに向けて南進する観光客を主にマイマイ通りから誘導している。観光客に目的地への道中で商店街を散策してもらうために、下田の美しい港景観を活用し、眺めの良い川沿いを「港街道」として観光導線とする。また南北の港街道から東西の軸線に観光客が流れるような導線を作ることで商店街に人の往来を生み出す。

b. 商店街における統合イメージの形成

下田市では、これまで各商店街ごとに異なる名前、異なる電灯を設けるなど商店街を個性化する策をとってきたが、下田の観光イメージの強化のため、これまでバラバラに行なってきた商店街の取り組みを統合し、統一した下田のイメージ創出が求められている。そこで、下田の歴史的資源である「黒船」をモチーフにし、「クロフネ商店街」として町全体で1つの統一イメージ形成を行うことを提案した。商店街のロゴタイプの検討や、商店街で目立つ電柱・電線を撤去するのではなく黒船のマストに見立てるといった案が出された。



▲電柱のマスト化と帆に見立てたフラッグを掲げたフォトモンタージュ。

c. 部分的な提案の例

- ・シャッターの利活用

下田市ではなまこ壁と伊豆石から成る建築が地域の歴史景観として残されていることから、提案内にもなまこ壁のイメージを用いることを検討している。また住民からの「商店街のシャッターを活用する場合には、観光客が立ち止まって情報が得られる仕組みを取り入れるなど工夫とデザイン性が欲しい」という意向を反映し、格子柄のクロスをかけ、なまこ壁を模したシャッターに地図情報をペイントする提案を作成した。



▲シャッターによる案内となまこ壁を模したクロスをかけたイメージ。

(4)改善点

住民からの意見を受け、現段階の案の課題点が浮かび上がった(後述の5. 地域からの意見に記載)。特に下田市での継続的使用に耐えうるようなデザインの素材・耐久性の検討が必要となる。また黒船に関しては蒸気船であることをPRできる仕掛けが必要など、モチーフに対するより深い理解が必要である。今後は下田の地形特性や歴史的背景を他都市との比較・調査を行いながら提案の内容を詰めていく。

5. 地域への提言と地域からの評価

(1) 学生からの提言

大学から地域への提言として住民に調査報告と仮提案内容の説明を行った。その内容に対しディスカッションを行い、住民の意見を聞き出す手法をとった。



(2) 地域の意向 [大学に求めること]

- ・過去にも活性化に関する提言を受ける機会があったが、具体化に至っていない。活性化を現実的なものにして欲しい。
- ・地元の人には下田の資源が日常化してしまい良さをアピールしきれていないので、外から見た下田の良さを伝えて欲しい。
- ・昔から住宅地であったところを観光地にしようとしているということを念頭に置いて、住んでいる人たちの暮らしがあることも忘れずに計画してほしい。
- ・商店街のシャッターを活用する場合にも、観光客が立ち止まって情報が得られる仕組みを取り入れるなど工夫とデザイン性が欲しい。

(3) 地域からの評価

① 活動に対する評価

- ・下田市長からは学生の発想は面白いとの感想をいただいた。
- ・商店街の用途特性のマッピングにより、市街地の構成が視覚化されたことにより商店街の状況を改めて理解することができた。

② 計画全体への評価

[大川端通り整備]

- ・大川端通りは市としても整備を検討しており、実現に向けて建設課とも調整し、検討をすすめる方針である。

[導線計画について]

- ・現在の南北軸のつながりが強い商店街に、東西軸の観光導線によって人の流れを生み出すことに可能性を感じる。

[デザイン提案全般に対して]

- ・設置した造形物のメンテナンスを配慮してほしい。
- ・商店側としては、予算が限られている中で、2、3ヶ月で劣化してしまうのは継続力がない。やるなら風に飛ばされない、劣化しにくい素材を選ぶ必要がある。
- ・風の強い地域なので工作物の衝立は危険かもしれない。空き家こそ装飾すべきだが破損した際にすぐに対処できないのは危険ではないか。

③ 個々の提案に対して

[黒船による商店街全体のイメージづくり]

- ・商店街の統一イメージの形成に黒船をモチーフにすることには賛成だが、セイルによる演出は帆船のような印象を受けてしまう。黒船は蒸気船であるため、それが伝わるようなデザインにして欲しい。(市長も同様の意見あり)

[シャッター案]

- ・マップの中の位置を把握する目印は良いと思った。地元民に親しまれるよう旧町名が位置案内に使われると良いのでは。
- ・案内機能があることを評価する一方、布素材を使うことに関しては耐久性の懸念がある。

④ 地域からの評価を得ての反省点

住民からの意見によって、提案が現地において継続的な策であるかという点についての課題が明らかになった。完成イメージだけでなく住民が継続的に使用していくことを念頭に置き、現地の気候における耐候性やメンテナンス方法など、導入後の持続可能性や制約を考慮する必要性を認識した。

6. 総括

今回は調査と仮提案の提出を行った。学生と住民との意見交換は市外部から見た下田の魅力と市内部視点からの暮らしについて意見を共有することができ、相互にとって新鮮な意見・発想を得られ、有意義な交流となった。今後も住民との交流を繰り返し下田の歴史的背景や地理条件の理解をさらに深めながら、デザインをつめていく予定である。